

岡山市のバリアフリーに関する現状と課題

- 2.1 岡山市の概況
- 2.2 バリアフリーに対する市民ニーズ
- 2.3 基本計画策定に向けた課題の整理

第2章 岡山市のバリアフリーに関する現状と課題

2.1 岡山市の概況

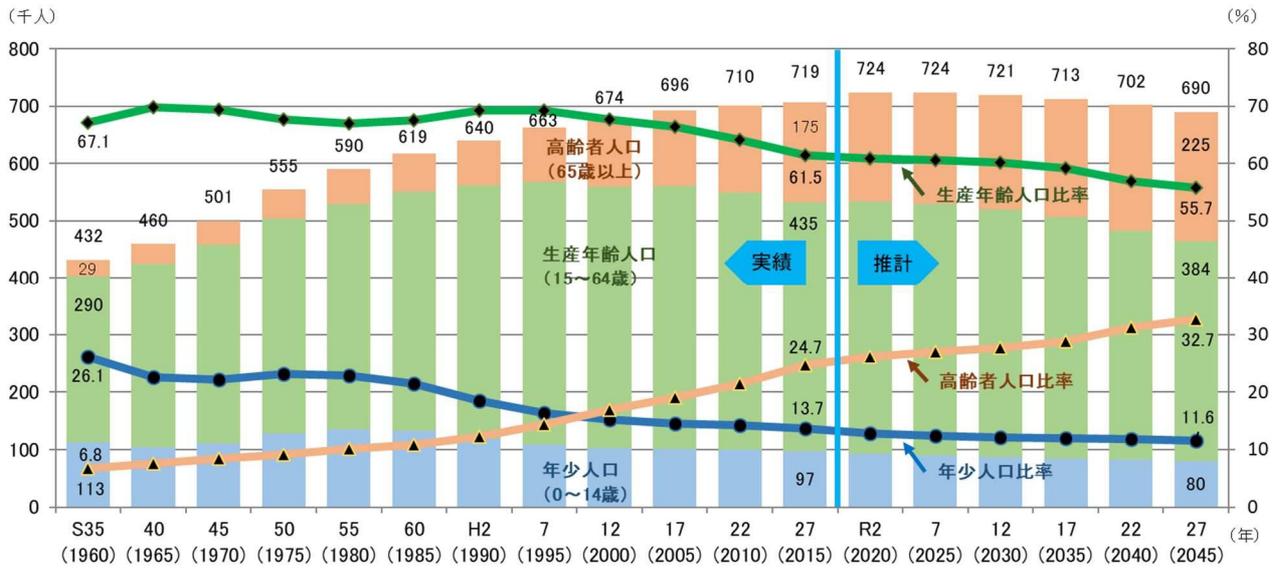
(1) 人口等の推移

1) 人口・高齢化率

岡山市の人口は、令和3年4月1日現在で、719,134人※となっています。また、人口減少局面を迎えており、令和27年には約69万人まで減少する見通しとなっています。

一方、高齢化率は上昇を続け、令和27年には32.7%まで上昇することが予測されています。

※推計人口：「国勢調査」の結果を基礎として、住民基本台帳の日本人及び外国人の出生、死亡、転入、転出等の数を加減して岡山県が毎月推計を行っているもの。

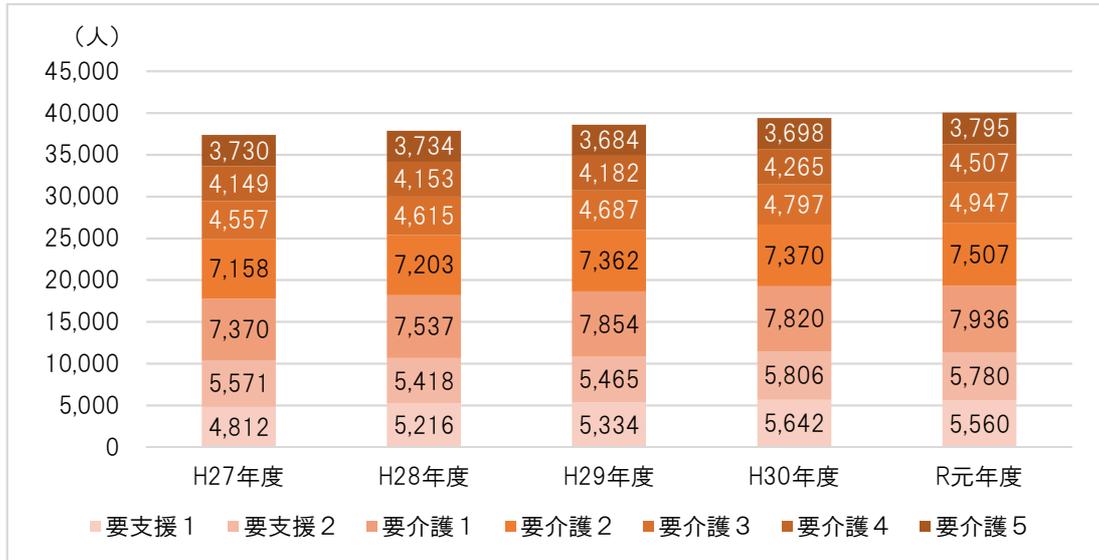


出典：総務省「国勢調査」(S35~H27)、岡山市推計(R2~R27)

図 2-1 人口・高齢化率の見通し

2) 要支援・要介護認定者数

岡山市の要支援・要介護認定者数は、年々増加しており、令和元年度末時点で、40,032 人となっています。



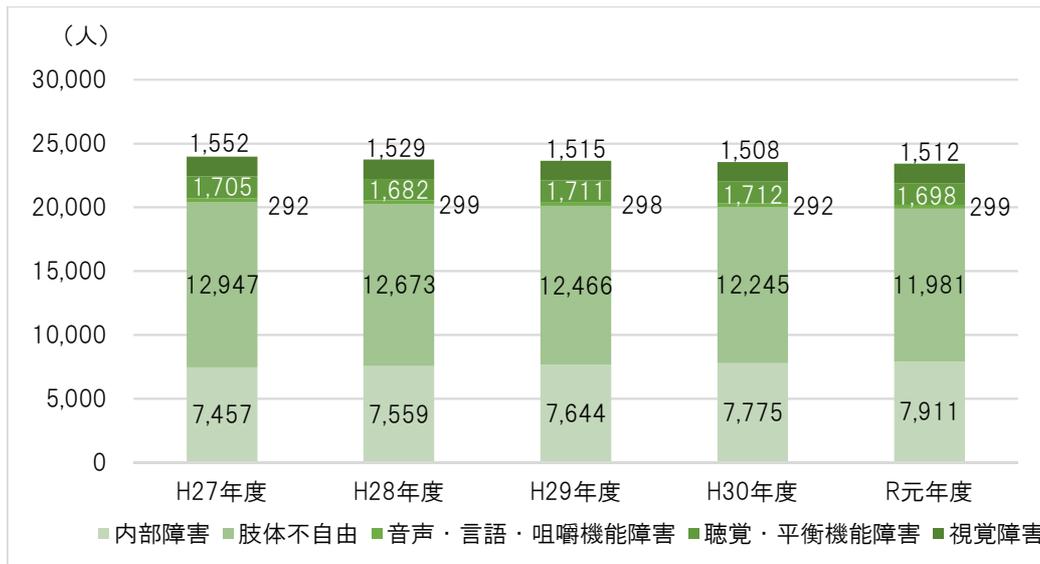
出典：岡山市介護保険事業状況報告(各年度 3 月末時点の数値)

図 2-2 要支援・要介護認定者数の推移

3) 障害者数

身体障害者、知的障害者、精神障害者の総数は、令和元年度で岡山市人口の約 5%にあたる約 36,000 人（身体障害者 23,401 人、知的障害者 6,178 人、精神障害者 6,592 人）となっています。

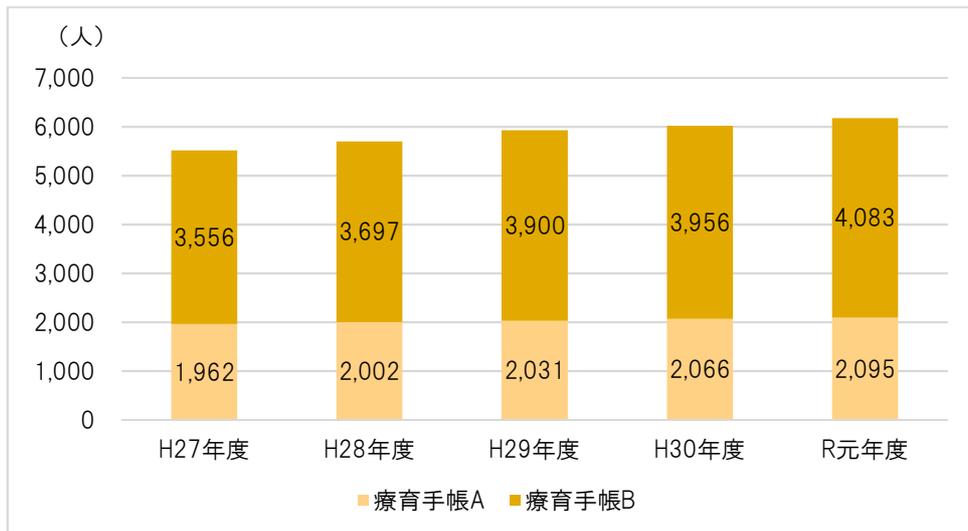
身体障害者の障害種別では肢体不自由が最も多く、次いで内部障害、聴覚・平衡機能障害となっています。



出典：岡山市障害者プラン及び第 6 期岡山市障害福祉計画・第 2 期岡山市障害児福祉計画 (R3.4)

図 2-3 身体障害者数の推移（障害別）

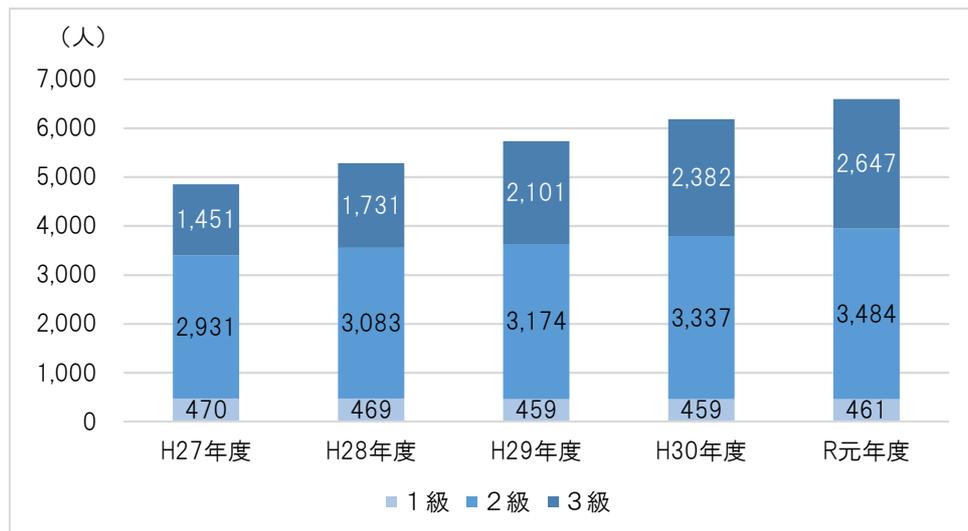
知的障害者は、年々増加する傾向にあり、平成 27 年度から令和元年度までに重度とされる療育手帳 A 所持者が 527 人、中・軽度とされる療育手帳 B 所持者が 133 人それぞれ増加しており、全体では約 12%の増加となっています。



出典：岡山市障害者プラン及び第6期岡山市障害福祉計画・第2期岡山市障害児福祉計画（R3.4）

図 2-4 知的障害者数の推移（等級別）

精神障害者についても、年々増加する傾向にあり、軽度とされる3級が特に増加しています。全体では平成 27 年度から令和元年度までに約 36%増加しています。

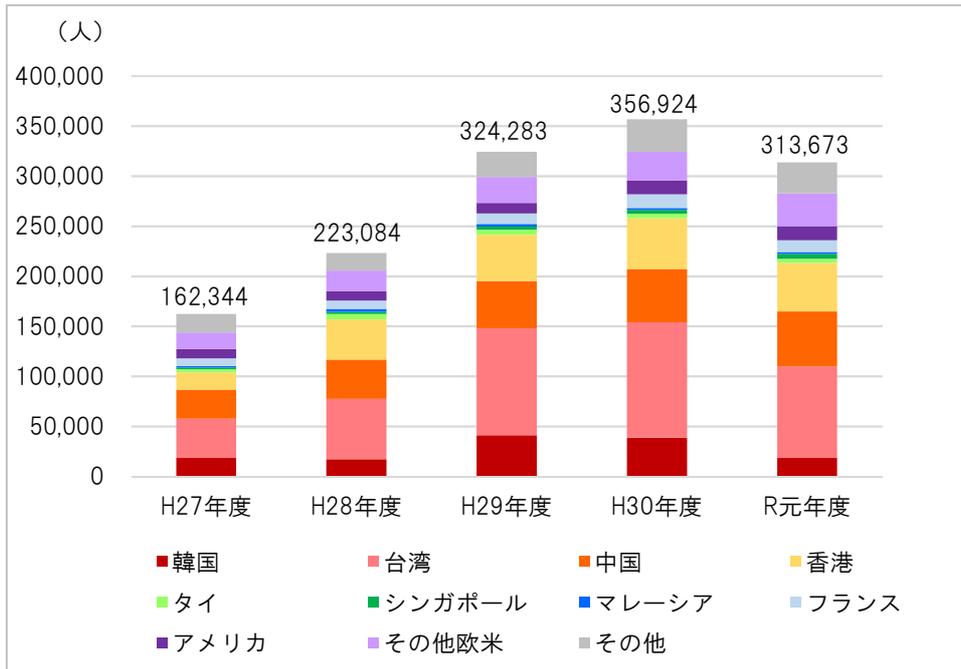


出典：岡山市障害者プラン及び第6期岡山市障害福祉計画・第2期岡山市障害児福祉計画（R3.4）

図 2-5 精神障害者数の推移（等級別）

4) 外国人数

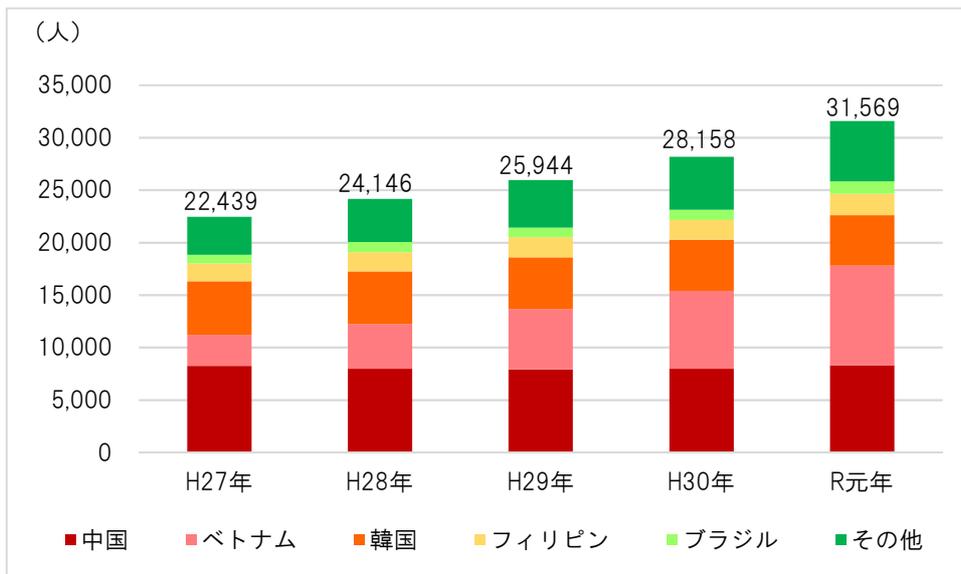
岡山県の外国人旅行者宿泊者数は、平成 30 年度から令和元年度にかけて減少したものの、長期的には増加傾向にあり、平成 27 年度から令和元年度にかけて約 1.9 倍に増えています。



出典：岡山県報道発表資料「外国人旅行者宿泊者数調査結果」

図 2-6 岡山県における外国人旅行者宿泊者数の推移

岡山県の在留外国人数は、年々増加する傾向にあり、平成 27 年から令和元年にかけて、約 41%増加しています。



出典：岡山県 HP「在留外国人数の推移」

図 2-7 岡山県における在留外国人数の推移

1日の平均乗降客数2,000人以上の鉄道駅について、視覚障害者誘導用ブロックはすべての駅に設置されていますが、段差については一部の駅で解消されていない状況です。また、障害者対応型トイレが設置されているのは半数程度となっています。

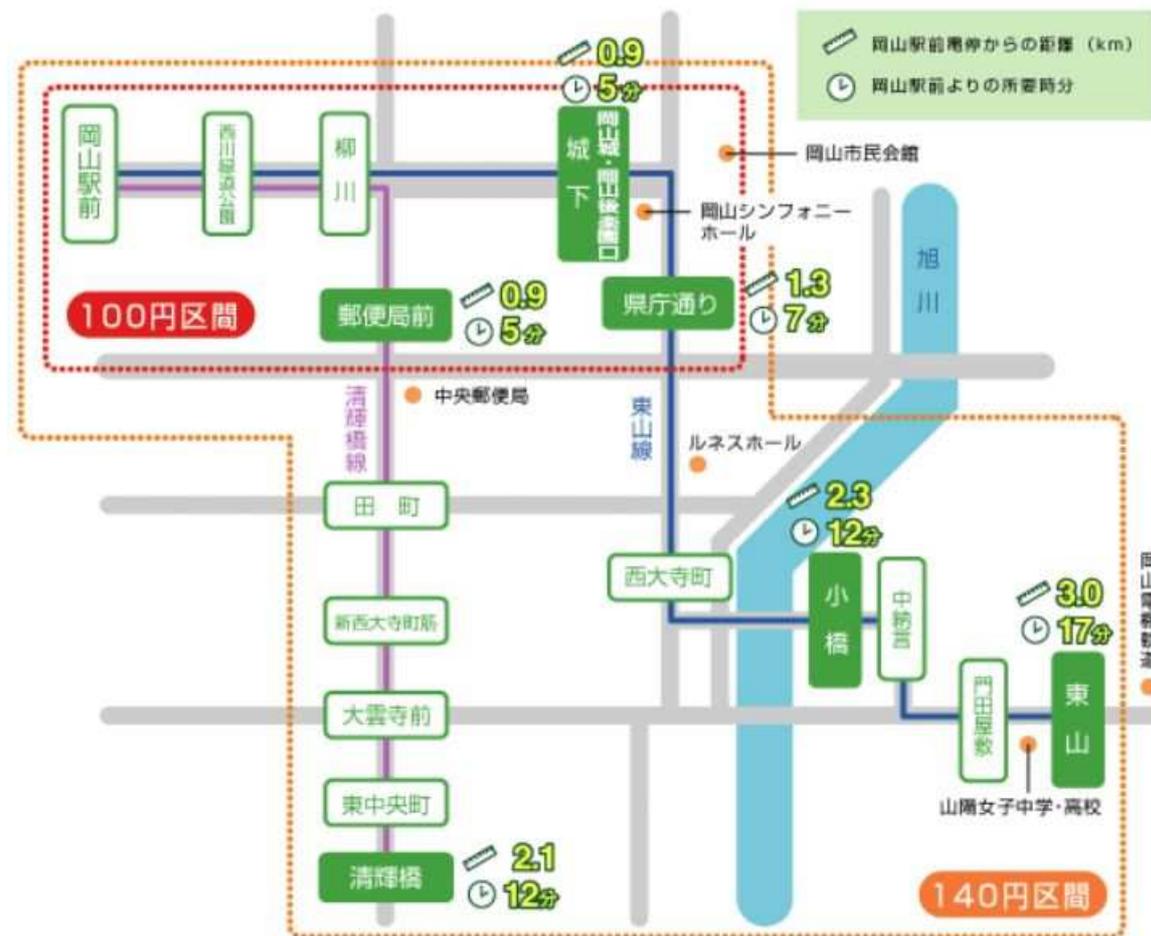
表 2-1 市内鉄道駅（平均乗降客数 2,000 人以上/日）のバリアフリー状況

駅名	1日の平均乗降客数 (R元年度)	段差解消	視覚障害者用誘導ブロック	障害者対応型トイレ	案内設備
岡山	138,650	○	○	○	○
北長瀬	9,430	○	○	○	○
庭瀬	8,682	○	○	○	○
東岡山	7,948	○	○	○	○
西川原	7,746	○	○	×	○
西大寺	7,262	○	○	○	○
高島	7,102	×	○	○	○
妹尾	6,326	○	○	○	×
瀬戸	5,360	○	○	○	○
大元	3,674	○	○	○	×
備前西市	3,626	○	○	×	×
大多羅	3,246	○	○	×	×
上道	2,912	×	○	×	○
法界院	2,614	×	○	×	×
備中高松	2,594	×	○	×	×
備前三門	2,294	○	○	×	×
備前一宮	2,052	○	○	×	×

○：整備済み ×：未整備

2) 軌道駅

岡山市内には、岡山電気軌道株式会社の2路線（東山線、清輝橋線）が運行しており、16駅が位置しています。



出典：岡山電気軌道株式会社 HP

図 2-9 岡山電気軌道路線図

平成 14 年より、電停との段差がない 100%超低床式路面電車が運行されています。車椅子でもスムーズに乗れる機能性を有しています。



図 2-10 超低床式路面電車

3) 路線バス

本市では、床面を超低床構造として乗降ステップをなくし、高齢者や児童にも乗り降りが容易なノンステップバスの導入を促進しています。

本市のノンステップバス導入率は、令和2年度末時点で約31%となっています。



図 2-11 ノンステップバス

4) タクシー

岡山県内でのユニバーサルデザインタクシーの導入状況は、令和元年度末現在で68台（全国ハイヤー・タクシー連合会公表）となっています。

ユニバーサルデザインタクシーは、車椅子利用者やベビーカー利用の親子連れなど、誰もが利用しやすい構造となっており、本市でも導入を促進しています。



図 2-12 ユニバーサルデザインタクシー

(3) 道路におけるバリアフリー化の現状

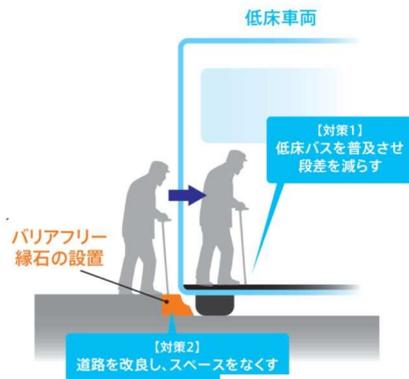
本市では、高齢者や障害者などを含め、すべての人が安全に安心して参加し活動できる社会を実現するため、駅、病院などを結ぶ道路や駅前広場・バス停などにおいて、歩道の段差・傾斜・勾配の改善、無電柱化、視覚障害者誘導用ブロックの設置、案内標示の多言語化などにより、道路空間のユニバーサルデザインを推進することとしています。



段差のない歩道



視覚障害者誘導用ブロックの設置



バリアフリー縁石



案内板の多言語化

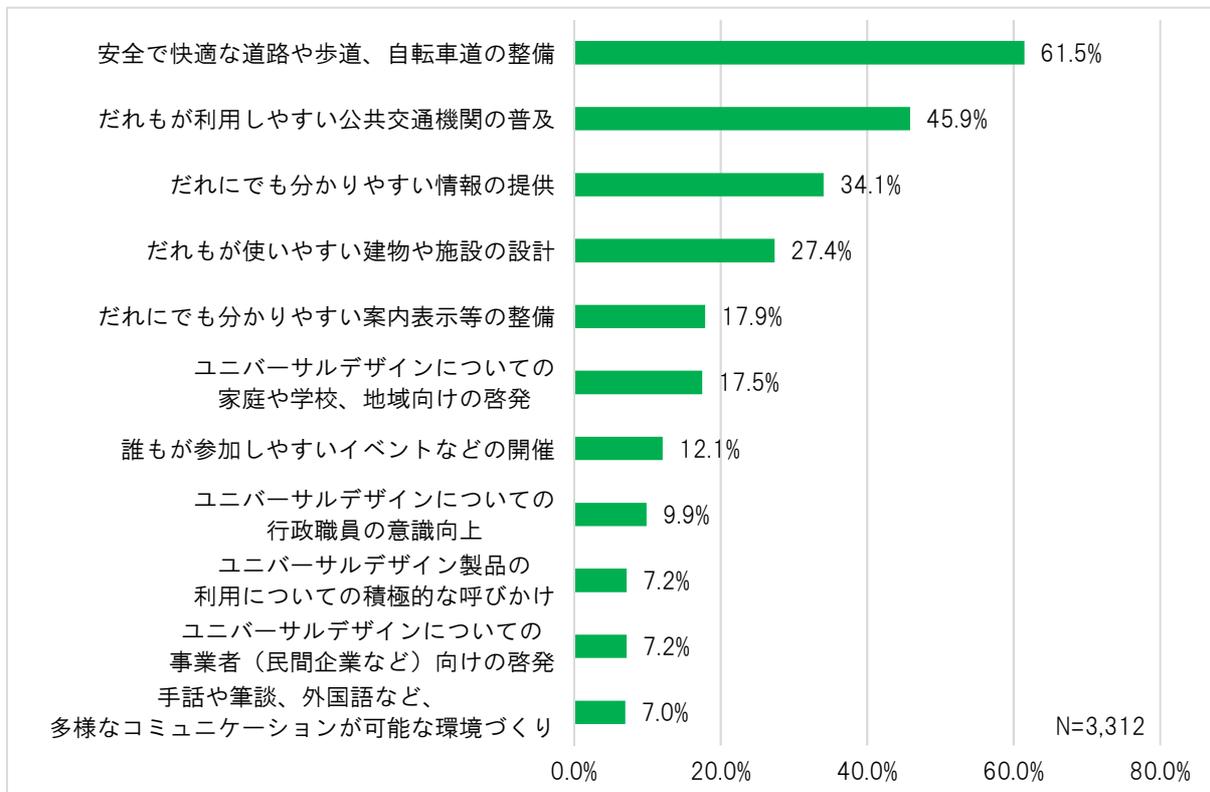
図 2-13 道路に関するバリアフリー化の取組事例

2.2 バリアフリーに対する市民ニーズ

(1) ユニバーサルデザインに関する市民意識調査

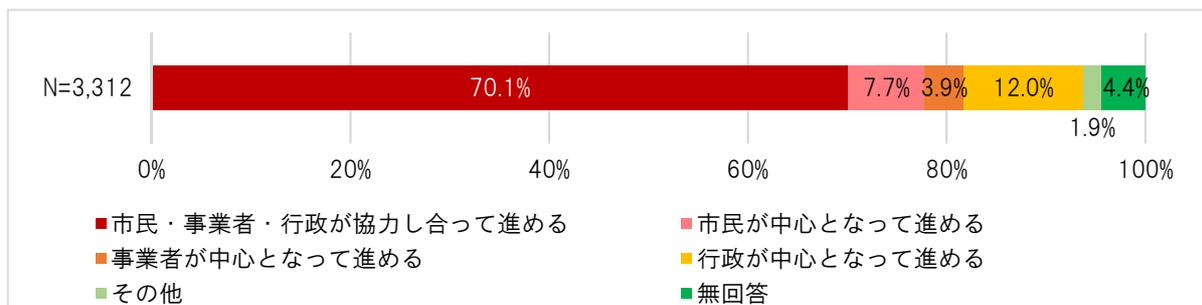
平成 30 年に実施されたユニバーサルデザインに関する市民意識調査では、「ユニバーサルデザイン」のまちづくりを進める上で、優先的に取り組むべきこととして、「安全で快適な道路や歩道、自転車道の整備」が61.5%と最も高く、次いで「だれもが利用しやすい公共交通機関の普及」が45.9%となっており、ハード面の整備を望む人が多く見られます。その一方で、「だれにでも分かりやすい情報の提供」が34.1%、「ユニバーサルデザインについての家庭や学校、地域向けの啓発」が17.5%となっており、ハード面のみならずソフト面での取組も重要視されています。

また、「ユニバーサルデザイン」のまちづくりをどのような方法で進めるべきかという問いでは、「市民・事業者・行政が協力し合って進める」が70.1%と圧倒的に高くなっています。



出典：岡山市ユニバーサルデザインに関する市民意識調査報告書（H30.9）

図 2-14 「ユニバーサルデザイン」のまちづくりを進める上で優先的に取り組むべきこと



出典：岡山市ユニバーサルデザインに関する市民意識調査報告書（H30.9）

図 2-15 「ユニバーサルデザイン」のまちづくりをどのような方法で進めるべきか

2.3 基本計画策定に向けた課題の整理

本市では、高齢化の進行に伴い、今後高齢者人口が増加することが見込まれています。また、障害者や外国人市民・旅行者も増加傾向にあり、今後移動や施設の利用にあたって様々な障壁を感じる人が増加することが想定され、これらを踏まえたバリアフリー化の都市空間づくりや社会環境づくりが課題になります。

また、バリアフリー化の整備は、これまでバリアフリー法等で定められている各種の基準に基づき、公共交通機関や道路、建築物等の各施設で個々に実施されてきていますが、移動の連続性に配慮すると、出発地から目的地に至る動線上に存する複数の施設・空間や車両等の連続的なバリアフリー化の整備を進める必要があります。

更に、市民意識調査から、バリアフリー化においてはハード面のみならず、ソフト面の取組も重要視されています。ハード面の施策に加えて、ソフト面の施策を組み合わせつつ、総合的に施策を展開していくことが重要です。

以上を踏まえ、基本計画の策定にあたっては、「面的・一体的なバリアフリー化」、「ハード・ソフト両面からのバリアフリー化」を推進していくことを念頭に置いて検討する必要があります。また、バリアフリー化の推進体制として、移動や施設の利用の主体となる市民の参加を基本とし、取組が一過性とならないように継続的な推進を図れる仕組みづくりが必要になります。

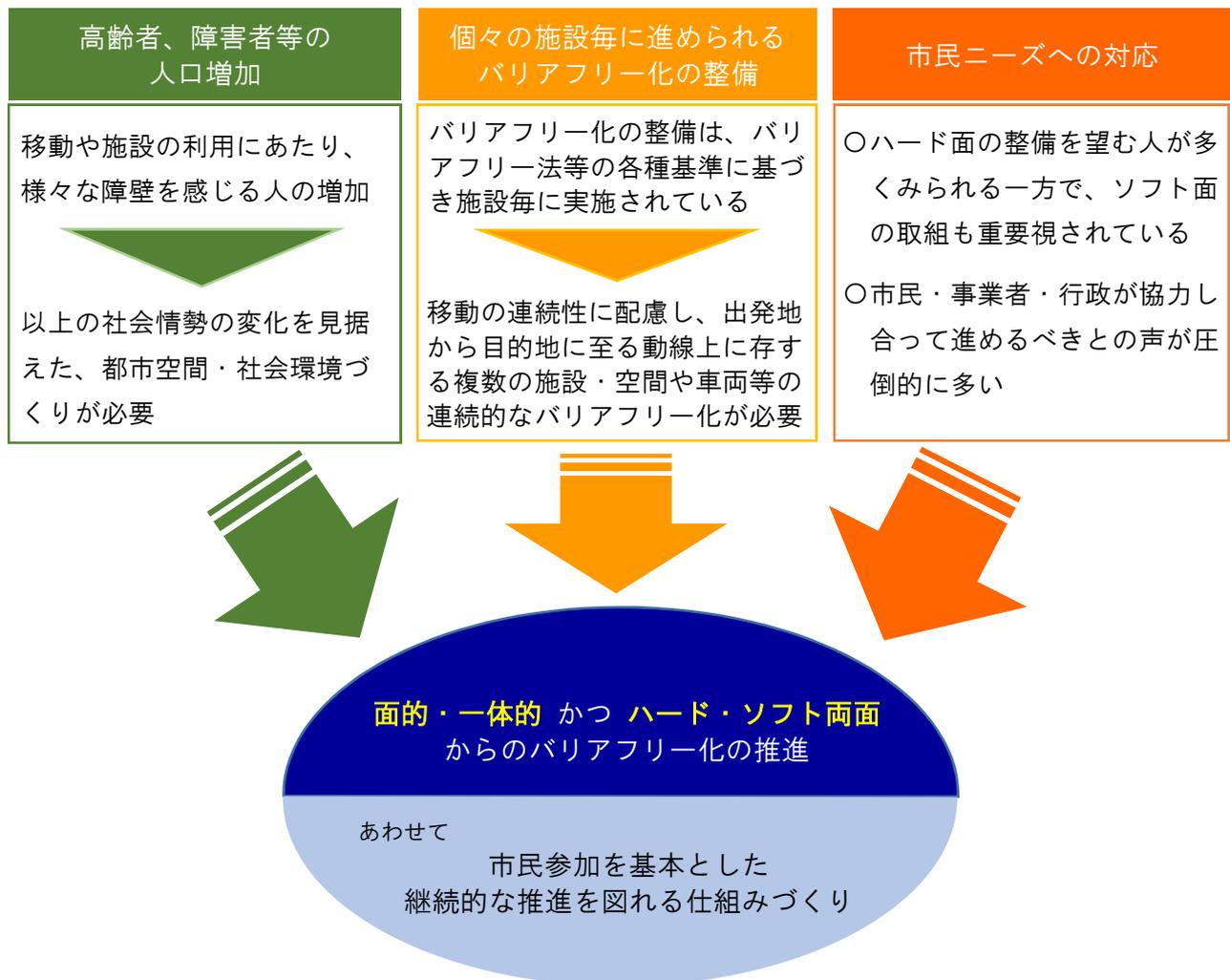


図 2-16 基本計画策定における課題